

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

がん診療連携拠点病院等における情報提供の適切な方法・項目の確立に資する研究

研究分担者	国立がん研究センターがん対策研究所	がん情報提供部	八巻知香子（室長）
研究分担者	国立がん研究センターがん対策研究所	がん情報提供部	高山智子（部長）
研究協力者	国立がん研究センターがん対策研究所	がん情報提供部	櫻井雅代（看護師）
研究協力者	国立がん研究センターがん対策研究所	がん情報提供部	志賀久美子（看護師）
研究協力者	国立がん研究センターがん対策研究所	がん情報提供部	宮本紗代（看護師）
研究協力者	国立がん研究センターがん対策研究所	がん情報提供部	山田裕里恵（特任研究員）

研究要旨

本研究では、病院選択をする患者やその家族らのニーズに沿った情報の把握のために、国立がん研究センターのがん情報サービスサポートセンターに寄せられた相談内容の質的内容分析を実施した。分析の結果、16のカテゴリーが抽出され、病院紹介を希望する相談者は様々な要望や不安を持ち、それらに対処するために情報を求めていることが明らかになった。相談者が求める情報は、病院に関する情報、治療法や疾患の特徴等の知識としての情報、治療への希望や不安等の個人の抱える問題に因る情報に分類されることが明らかになった。病院情報と合わせて、相談者が求める知識に対応する情報の充実と、個々人の事例の収集及び整理の必要性が示唆された。

A. 研究目的

平成30年に策定された「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」に基づき、都道府県においてがん診療連携拠点病院が設置されている。がん診療連携拠点病院等には、患者のニーズに沿った診療実績や他施設との連携体制等の情報提供が求められるが、Webページでの情報提供や適切な公開項目は確立していない。

本研究では国立がん研究センターのがん情報サービスサポートセンターに寄せられた相談内容を分析し、患者やその家族が病院選択の際にどのような情報を求めるのか把握することで、適切な情報を同定することを目的とする。

B. 研究方法

2021年1月から12月の間に国立がん研究センターがん情報サービスサポートセンターで受けた電話相談4355件の内、医療機関の紹介に関する相談206件について調査対象とし、質的内容分析を実施した。調査対象の性別は、男性が67件、女性が139件、属性は患者本人が114件、家族・親戚が87件、その他が5件であった。また調査対象の治療状況について、治療前が152件、治療中が33件、治療後・経過観察中が7件、緩和ケアのみが5件、その他状況

不明が9件であった。

本研究は「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の適用範囲に該当しないため、国立がん研究センター研究倫理審査委員会より、倫理審査不要通知（6000-078）を受け、実施した。

C. 研究結果

質的内容分析の結果、16のカテゴリーが抽出された。以下サブカテゴリーを【】、コードを「」で表す。

① シンプルな病院紹介

本カテゴリーでは、【セカンドオピニオンの紹介希望】、【治療病院の紹介希望(診断後)】、【治療病院の紹介希望(診断前)】が抽出された。診断結果を踏まえ、病院紹介を希望するケースの他に、診断前や検査結果に異常が無い場合でも病院紹介を希望するケースがあった。

② 特定の地域における病院紹介希望

本カテゴリーでは、【近隣の病院】、【家族が在住している地域の病院】、【転勤・引っ越し先の地域の病院】、【仕事でよく来る地域の病院】、【日

本の病院】が抽出された。日本の病院の紹介希望については、相談者の家族が海外に在住しており、日本で治療を受けさせるために病院を紹介してほしいというケースであった。

③ 病院候補の選択基準

本カテゴリでは、【複数の選択肢での迷い】が抽出された。大きな違いのない病院候補の中から選択するための基準や、近隣の病院と遠方のがん拠点病院のどちらを選択すべきかについて相談があった。

④ 良い病院の紹介希望

本カテゴリでは、【良い治療を受けるための病院紹介希望】が抽出された。

⑤ 病院選びのポイント

本カテゴリでは、【治療病院の選び方】、【セカンドオピニオンの選び方】が抽出された。

⑥ 緩和ケア・ホスピスのある病院

本カテゴリでは、【緩和ケアのある病院の紹介希望】、【ホスピスの紹介希望】が抽出された。

⑦ 特定の条件が整った病院の紹介希望

本カテゴリでは、【トリプルネガティブに対応している病院】、【若い世代の多い病院】、【AYA世代に対応している病院】が抽出された。

⑧ 持病の治療可能な病院

本カテゴリでは【心臓疾患】、【精神障害】、【脳疾患】、【肝疾患】、【腎疾患】、【知的障害】、【誤嚥性肺炎】、【脂質異常】、【皮膚筋炎】、【下半身麻痺】、【重度の障害】が抽出された。

⑨ 希少がんの治療可能な病院の紹介希望

本カテゴリでは、【中皮腫】、【悪性リンパ腫】、【原発不明ながん】、【GIST】、【舌がん】、【軟部肉腫】、【褐色細胞腫】が抽出された。

⑩ 希望が通る病院の紹介

本カテゴリでは、【現在の病院で治療を断られ、治療可能な新たな病院を探したい】、【包括的な治療可能な病院】、【特定の時期の治療可能な病院】、【特定の状況下での治療可能な病院】、【患者抜きでセカンドオピニオン可能な病院】、【手術で取り切れなかった腫瘍の切除をしてくれる病院】、

【甲状腺がんの予防的切除可能な病院】、【痛みの対応がある病院】が抽出された。【包括的な治療可能な病院】では、「検査と手術を同じ病院で行いたい」という希望があった。【特定の時期の治療可能な病院】では、「土日の受診可能な病院が知りたい」、「時間外対応をしてほしい」といった希望があった。【特定の状況下での治療可能な病院】では、「コロナ禍での手術可能な病院が知りたい」、「家族付き添いで手術可能な病院が知りたい」といった希望があった。

⑪ 実績・評判

本カテゴリでは、【症例数の多い病院】、【特定の疾患の治療に長けた病院】、【特定の病院の評判】が抽出された。

⑫ 特定の治療・診療を行っている病院

本カテゴリでは、【特定の治療を行う病院】、【後遺症の治療可能な病院】、【特定の薬の処方をする病院】が抽出された。

⑬ 現在の病院や医師への不満

本カテゴリでは【現在の病院で良いか転院すべきか】、【現在の病院への不満・不安】、【医師への不満・不安】が抽出された。

⑭ 情報の要求

本カテゴリでは、【特定の治療法】、【特定のがんの特徴】、【一般的な見解】、【セカンドオピニオンについて】、【転院について】、【自宅で看取する方法】、【臨床試験の情報の探し方】、【費用について】、【家族の介護をしながら治療する方法】が抽出された。【一般的な見解】では、「自身の診断結果が正しいのか一般的な見解が知りたい」、「転移によりステージが変化することはあるのか知りたい」といった要望があった。

⑮ 特定の状況への不安

本カテゴリでは、【現在の治療・病院への不安】、【今後への不安】、【検査結果に対する不安】、【身近な人を亡くした経験から生じる不安】、【家庭環境による不安】、【医療費の不安】、【入院時の手配に関する不安】が抽出された。【家庭環境による不安】では、「夫からDVを受けており、現金払いの病院へ通院することができない」といった不安があった。

⑩ 冊子について

本カテゴリーでは、【冊子の購入希望】が抽出された。

D. 考察

分析の結果、相談者はがん治療のための病院紹介希望と合わせて様々な要望、不安を持つことが明らかになった。

①では、患者自身や家族の診断結果や疾患の進行具合を踏まえた病院紹介の希望の他に、診断は受けていない、あるいは検査結果に異常が無かったが、病院を探したいという要望があることが明らかになった。この結果については、「がん」という疾患について重く捉え、不安を感じ、事前に情報により少しでも安心を得たいのではないかと推察される。

⑧では、がん以外の持病があり、がんと並行して治療を行いたいという要望が多数あることが明らかになった。特に高齢のがん患者ほど併存疾患を持っている場合が多く、がんと併存疾患の治療を兼ねた病院の情報は有用であると考えられる。

⑩では、相談者が治療に対して多様な希望を持っていることが明らかになった。全ての希望に沿うことは困難だが、対応可能であったものについては、個人の希望と対応方法を対にしてまとめることで、今後類似のケースがあった際に役立つのではないかと考えられる。

⑭では、病院紹介希望と合わせて、治療法やがんの特徴等について情報を求めるケースが多いことが明らかになった。相談者が求める情報は特定の治療法に関するもの、特定のがんの特徴に関するものがそれぞれ全体の約3割を占めていた。これらの要望に対応するために、各治療法、疾患についての情報をより充実させる必要があることが示唆された。また治療法については実績のある病院を合わせて示すことで⑪や⑫の要望にも対応できるのではないかと考えられる。

そして⑮により、相談者から多種多様な不安が語られることも明らかになった。これらの不安は必ずしも病院の紹介だけで解決するものではない。医療費や家庭環境による不安が語られたケースがあったが、これらはそれぞれ適切な専門家の支援へつながる必要がある、生活や家庭に関する相談窓口等の情

報も必要であることが示唆された。

本研究の結果を踏まえ、相談者は病院選択の際、病院に関する情報、治療法や疾患の特徴等の知識としての情報、そして治療への希望や不安等の個人の抱える問題に因る情報を求めていることが明らかとなり、それぞれに対応していくことの必要性が示唆された。

E. 結論

病院紹介を希望する患者や家族は、様々な要望や不安を持ち、それらに対処するための情報を求めていることが明らかになった。また患者らが求める情報は、病院に関する情報、治療法や疾患の特徴等の知識としての情報、そして治療への希望や不安等の個々人の抱える問題に因る情報に分類されることが明らかになった。今後、病院情報と合わせて患者らが求める知識としての情報を充実させ、個々人の要望についても事例としてまとめることで少しずつ情報の幅を広げていく必要があることが示唆された。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

表 1 質的内容分析の結果

サポートセンターにおける相談内容の質的内容分析

カテゴリー	サブカテゴリー	コード数
1. シンプルな病院紹介	セカンドオピニオンの紹介希望	18
	治療病院の紹介希望 (診断後)	17
	治療病院の紹介希望 (診断前)	6
	計	41
2. 特定の地域における病院紹介希望	近隣の病院	23
	家族が住んでいる地域の病院	5
	転勤、引っ越し先の地域の病院	2
	仕事でよく来る地域の病院	1
	日本の病院 (海外在住の家族のために紹介してほしい)	1
計	32	
3. 複数の病院候補の選択基準	複数の選択肢での迷い	計9
4. 良い治療、良い病院情報	良い治療を受けるための病院紹介希望	計1
5. 病院選びのポイント	治療病院の決め方	14
	セカンドオピニオンの選び方	2
計	計16	
6. 緩和ケアのある病院	緩和ケアのある病院の紹介希望	5
	ホスピスの紹介希望	1
計	計6	
7. 特定の条件が整った病院	トリプルネガティブに対応している病院	1
	若い世代の多い病院	1
	AYA世代に対応している病院	1
計	計3	
8. 持病も見てくれる病院の紹介	心臓疾患	4
	精神障害	4
	脳疾患	2
	肝疾患	2
	腎疾患	2
	知的障害	1
	誤嚥性肺炎	1
	脂質異常	1
	皮膚筋炎	1
	下半身麻痺	1
重度の障害	1	
計	計20	
9. 希少がんの治療病院とセカンドオピニオン	中皮腫	5
	悪性リンパ腫	3
	原発不明ながん	3
	GIST	1
	舌がん	1
	軟部肉腫	1
	褐色細胞腫	1
計	計15	

10. 希望が通る病院の紹介	現在の病院で治療を断られ、治療可能な新たな病院を探したい	5
	包括的な治療可能な病院	5
	特定の時期の治療可能な病院	5
	特定の状況下での治療可能な病院	4
	患者抜きでセカンドオピニオン可能な病院	2
	手術で取り切れなかった腫瘍の切除をしてくれる病院	1
	甲状腺がんの予防的切除可能な病院	1
	痛みの対応がある病院	1
	計24	
11. 実績・評判の良さ	症例数の多い病院	10
	特定の疾患の治療に長けた病院	3
	特定の病院の評判	2
	計15	
12. 特定の治療・診療を行っている病院	特定の治療を行う病院	25
	後遺症の治療可能な病院	2
	特定の薬の処方をする病院	1
	計28	
13. 現在の病院や医師への不満	現在の病院で良いか転院すべきか	15
	現在の病院への不満・不安	11
	医師への不満・不安	4
	計30	
14. 情報の要求	特定の治療法	12
	特定のがんの特徴	11
	一般的な見解	7
	セカンドオピニオンについて	3
	転院について	2
	自宅で看取る方法	1
	臨床試験情報の探し方	1
	費用について	1
家族の介護をしながら治療をする方法	1	
	計39	
15. 特定の状況への不安	現在の治療・病院への不安	3
	今後への不安	3
	検査結果に対する不安	2
	身近な人を亡くした経験から生じる不安	2
	家庭環境による不安	2
	医療費の不安	1
入院時の手配に関する不安	1	
	計14	
16. 冊子について	冊子の購入希望	計2